

## 課題対応取組み報告書

名称

城東区地域包括支援センター

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
	<input type="checkbox"/> その他( )	
活動テーマ	困りごとのある高齢者を支えるための地域づくり ～地域・専門職との連携・対応力の強化に向けて～	
地域ケア会議から 見えてきた課題	①認知症などにより金銭管理が困難となり生活が困窮するケース ②依存症や精神疾患により、近隣トラブルとなる ③支援拒否が強く支援に時間を要し苦慮するケース ④同居家族の問題により、虐待疑いなど深刻化、複雑化するケース	
対象	地域住民、地域関係者(町会役員・民生委員)、ケアマネジャー・介護サービス事業者	
地域特性	【覆並地域】高齢化率が高く22.1%、特に野江3丁目は27.5%と高い。高齢者や障がい者を対象に「あんしん見守り隊」が結成され、地域で見守り活動を実施している。ワンルームマンションや文化住宅でのひとり暮らし高齢者が多い。 【聖賢地域】高齢化率は20.9%、特に中央3、蒲生3・4丁目は28%で、ひとり暮らし高齢者の割合も高い。蒲生4丁目交差点周辺やJR京橋駅にかけて区の中心的部分を占めており、警察署・年金事務所・商店街が充実した地域である。 【成育地域】高齢化率は21.7%、特に成育4.5丁目が28～31%と高い。マンションが多く、就学年齢層、子育て世代の割合が多い。最寄り駅が多く交通の便が良く、城東区役所総合庁舎・税務署がありさらに人口増加が予測される。北部に面する地域では、ワンルームマンション、駐車場、空き家がやや目立つ状況。 【鯉江地域】高齢化率は20.3%。特に今福西5丁目は28%と高い。古い町並みと工場跡地にできた大型マンション群で就学年齢層、子育て世代の割合が多い。	
活動目標	1) 地域で困りごとのある高齢者を早期に見発でき支え合える体制づくり 2) 8050問題を踏まえ、高齢者の認知症の問題だけでなく、同居家族の発達障がいや知的障がい等の背景について、支援関係の専門職だけでなく、地域住人も理解を求める機会や学習会を開催し、地域共生社会を目指す。	
活動内容 (具体的取組み)	①コロナ禍であったため、高齢者の実態把握として民生委員や地域福祉支援員と実施している「助け合いあんしんカード」登録の取組みで地域関係者と接触する機会は減ったものの、これまでの活動で培った顔の見える関係づくりにより、地域で困りごとのある高齢者を見発した際の連携は円滑に行えた。 ②「地域包括支援センターだより」を年3回発行(町会班回覧)し、法人が発行する広報誌「ゆうゆう」(各戸配布)への掲載を通じて、総合相談窓口の周知や高齢者虐待防止の啓発を行った。 ③認知症の単身世帯の高齢者への金銭管理の支援の関わり方への課題対応取組みとして、ケアマネジャーや介護保険事業者を対象にし、「独居世帯への支援～金銭管理の支援の留意点について～」というテーマで多職種連携学習会を開催した。 ④成育地域では「成育健康フェスタ」を開催し民生委員や地域福祉支援員と地域の専門職が企画から当日の運営まで協働し、コロナ禍の地域高齢者の介護予防・認知症予防や感染対策などを啓発活動を行った。 ⑤権利擁護の視点を啓発する機会として、高齢者虐待の周知啓発や、介護予防の取組みとして「認知症予防プログラム」を開催した。「地域ケアフォーラム」や「認知症予防講演会」をWEBを併用し、区内包括と協働して取組んだ。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	コロナ禍2年目となり、高齢者の集いの場が減る一方で、紙媒体や法人ホームページへの総合相談窓口周知は継続して行った。結果、身近な気づきとして友人など地域住民などから、支援につながった事例が例年より増えた(相談延件数が前年度比1.3倍増)。また、介護サービスを利用している高齢者の担当ケアマネジャーから支援困難事例や高齢者虐待疑いの事例の相談・対応件数の増加もあり、ケアマネジャーの相談件数が前年比1.5倍増となった。WEBを併用した講演会を区内の4圏域包括や強化型包括と協働して取り組んだことにより、区民向け講演会を配信で実施するノウハウを知る機会となった。	
今後の課題	令和3年度はコロナ禍で地域活動の再開を待ち望む声もありながら、高齢者の集いの場が再開されない状況が続いていた。長期の巣ごもり、かつ感染への恐怖心や家族からの反対などにより外出控えによるフレイルや認知機能低下、人間関係の希薄化も影響しているのか、相談内容が複雑で支援が長期化する事例の増加がみられた。地域の理解や見守りの目、協力者を増やし、早期に相談・支援につながる体制づくりを強化しながら、コロナ禍でも実施可能な取組みや活動を検討していく必要があると考える。加えてケアマネジャーの対応スキルの向上のための取組みも行っていきたい。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 4年 7月 13日 (水)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目(特性) についてのコメント  *今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議会 からの意見等を記載。	コロナ禍でも、高齢者の実態把握として民生委員や地域福祉支援員と実施している「助け合いあんしんカード」登録の取組みや、「地域包括支援センターだより」を年3回発行(町会班回覧)し、法人が発行する広報誌「ゆうゆう」(各戸配布)への掲載を通じて、総合相談窓口の周知や高齢者虐待防止の啓発は良い取組みである。相談件数が1.5倍になり、ケアマネジャーへの支援が良い結果として現れている。	